



祐介の目

No.161

大田祐介（福山市議会議員）

福山地方卸売市場

卸売市場の役割は生鮮食料品を適正な価格で安定して消費者に供給することであり、福山市の台所とも言える。市場開設から50年が経過し、大規模改修を実施することになり、福山市も多額の財政支援を行う予定だ。民営民営の市場だが、その役割と責務は公設市場と遜色ない。場内の「わくわく市場」は誰でも入れるし、早朝から美味しい海鮮丼が食べられる食堂もある。

先日、池田市場長の案内で施設を見学したが、老朽化や地盤沈下が著しく、地元産品の集荷量は減少している。特に海産物が著しく青果も福山産の取扱量は1%程度だ。日本全国から大量の産品が集荷されており、市場を核とした広域自給圏により量販店は商品の品揃えが可能となっている。改修により多くの生産者、業者、市民が集える市場となることを期待している。

また、市場は大規模生産者、

産直市は小規模生産者が出荷するという認識は誤解だそう。市場は受託拒否ができず、たとえ白菜5個でも持ち込まれたら相場で買い取らなければならぬ。片や産直市は売れ残ったら出品者が回収するのが一般的だ。その手間暇を考えると小規模生産者でも市場に出すという選択肢はある。

私も山野峡大田ワイナリーの前で「日曜朝市」という産直市を開いている。山野町にはスーパー等の小売店は一軒も無く、朝市が町内唯一の販売所となっている。そこで面白い現象が見られ、朝の開店時に出品者が他の出品者の商品を買って帰ることだ。まるで物々交換であり、小規模自給圏が形成されている。野菜の他にコンニャクなどの加工品も人気だし、秋のマツタケ等は相場の半値以下で手に入る。ぜひ日曜日の朝に山野町にお越しいただきたい。

小規模自給圏は昭和の時代にはどこにでもあった風景であり、日本の農村の原風景かもしれない。ほとんどお金が必要ない社会とも言え、来るべき食料不足の時代に向けて小規模自給圏と広域自給圏の併存が望ましい。皆様もぜひ農業にチャレンジして欲しい。